
殺伐とした世界へ

ちゃそ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺伐とした世界へ

【Nコード】

N1083S

【作者名】

ちゃそ

【あらすじ】

一度死に、どういっわけか第二の人生を開始した青年は、殺伐とした乱世の異世界へと舞い降りた。そこは鉛の弾丸飛び交う戦時中だった。平和主義を掲げる青年は、世界の平和と自分のため、異世界で出会った人たちのために戦場を丸腰で駆け抜ける。どういっわけか青年には常人にはない何かがあった。

エピソードとプロローグ

何も無い、ただただ無が広がっている。いや、もしくは広がる無というものすら存在しない、俺は今五感では何一つ感じ取っていない状態なのかもしれない。

突然だが俺は死んだ。なぜ死んだのかは憶えていない。今の時点からどれくらい前に死んだのかも憶えていない。憶えていることは、自分の名前が九島翔くしまかけるであり、高等学校を卒業はした、ということくらいだ。

顔は、お世辞にもカッコいいとは言えない。成績も並み、運動能力も普通。そんな男だったはずだ。

それと、なぜか自分に関すること以外の記憶は何一つない。そのことも、自分が死んでいるということも、なぜか少しも悲観的には感じられない。

死んだ人は、みんなここにやってくるのかな、と思った。でもすぐにそれはないだろうと、自分の考えを打ち消した。俺の五感が、ゆっくり少しずつだが何かを感じ取り始めている。どうやら何かが始まるらしい。

最初は、触覚。肌で、空気と触れる感じが伝わってくる。そして次に、聴覚。いや、これは違う。幻聴の類かもしれない。

『第二の人生だ、幸運を祈る。手始めに、世界でも救って見せてくれ』

意味不明の幻聴の直後、俺の五感が一気に覚醒した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1083s/>

殺伐とした世界へ

2011年10月8日20時51分発行